2022 年度活動報告（2022.4.1～2023.3.31）

ワークライフバランス事業

①企業・団体への伴走事業

・東温市歯科衛生士カムバックプロジェクト（東温市歯科医師会）

＜実施したこと＞
歯科衛生士復職支援講座２回・「タウン情報まつやま」と「愛媛こまち」への現役歯科衛生士のインタビュー記事の掲載。
歯科衛生士会の方より
「そもそも、受け入れ側の労働環境や経営者（歯科医）の意識を変えなければ、いくら発信しても歯科衛生士は増えない」
⇒令和５年度は、歯科医（経営者）向けのハラスメント研修や職場環境改善の勉強会を予定。

②まつやま働き方改革推進会議事業（令和5年4月に、発展的解散いたしました）

実施内容１：「学生と共に考える、かいしゃ通信簿プロジェクト」

学生の声を取り入れて、働き方改革の指標づくり（通信簿）をおこなった。

働き方改革 若者の声を
愛媛大生ら 企業評価シート作成
離職率改善へアンケート
2023.2.15

学生サポート：合同会社 Cheer for　野村和匡さん（＋社会人ボランティア）
学生：愛媛大学リーダーズスクール・松山大学の学生 12 名がスタッフとして参加。
・企業４社（富士通コミュニケーションサービス(株)、(株)イープレス、宇和島自動車運送(株)　、サイボウズ(株)）を訪問してインタビュー
・社会人の話を広く聞くための交流会（みらい談話室）やお披露目交流会（EhimeStyle）を学生主体となって開催！

実施内容２：ワクワクサポーター活動

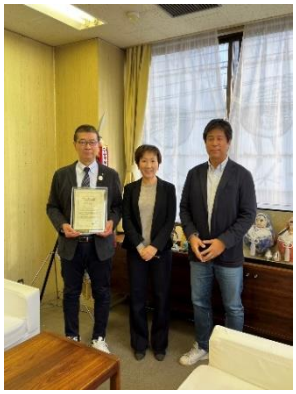
・ワクワクサポーター（企業の中堅世代）12名（男性6名女性6名）＋事務局4名

・7月：高田名奈さん　　はさまれ世代式「心が折れそうなときの内省の仕方」

・9月：児玉寛将さん　『しくじりエンジニア　～人生ってやり直せるねん～』

実施内容３：チャレンジ企業から働き方改革認定企業へ

2020年度にチャレンジ企業に取り組んだ岡田印刷(株)さんが、そのときには「働き方改革認定企業」とはならなかったが、終了後に自社で働き方改革を継続し、改めて認定企業として12/14に表彰された。



＜成果＞

「働き方」は学生・企業の方・経営者、それぞれ捉え方も理想も違う。活動を通じて「自分を知る・相手を知る」というきっかけになり持続可能な働き方のための工夫が生まれている。

ワーコラが関わっているプロジェクトは

・まつやま働き方改革推進会議（まつやまワークワク部）

・まつやま人口減少対策推進会議（ライフデザインプロジェクト）

・まつやま SDG s 推進協議会（ジェンダーギャップ解消ラボまつやま）

「働き方改革」は、ワークライフバランスと同義語として
ワーコラが取り組んでいる一つの
キーワード、2023 年より点在する様々な
取り組みを SDG s 推進の視点から面に
するよう取り組んでいきます！
その取り組みの一つが
「シン・まつやまワークワク部」
～学んで実践、頼られマネージャー
（センパイ）になろう～

③四国中央市男女共同参画ロールモデル集＜冊子＆動画＞作成

（四国中央市男女共同参画啓発事業）

四国中央市のさまざまな企業で、仕事も暮らしも楽しんでいる 13 名（冊子 10 名、動画 3 名）の方を紹介。若者が、ハタラク先輩の「ワーク×ライフ」を知り、四国中央市での暮らしをもっと知ってもらう冊子と動画。

※冊子を作ったのは、愛媛大学社会共創学部産業イノベーション学科紙産業コースの 3 回生。事前学習・調査→取材→原稿執筆まで担当。

＜成果＞

・四国中央市で新たなロールモデルを 13 名（男性 6 名、女性 7 名）発掘。

・学生が仕事と暮らしの両立についてロールモデルから学ぶ機会を提供。

・学生が取材先の企業の採用試験を受け、内定！（2 名）

④第１回「仕事と暮らしの両立フェスタ」開催

「ハタラク×暮らす×多様性」をコンセプトに、自分と違う価値観に出会い、「共感はできなくても理解はできる」という状態を目指し、「当事者が少し先の未来が見えるようになる」場を創る。

＜概要＞
2022 年 12 月 4 日(日)　10 時～16 時
於 THE CENTRAL MARKET（松山三越地下 1 階）
来場者：約 700 名
スタンプラリー景品受取者：236 名
ブース出展：21 団体（企業 9,啓発 5,チャレンジ 7）
ブース出展参加者：62 名
フェスタ実行委員会：14 名（内 10 名が当日参加）
ボランティア（大学生）：8 名　　ボランティア（社会人）：6 名
ゲスト：4 名

実施内容１：クラウドファンディングの実施

フェスタ開催資金集めとテーマを幅広い人たちに知っていただくことを目的とし、97 名から 814,185 円のご寄付をいただいた。

実施内容２：仕事と暮らしの両立に寄与するブース出展

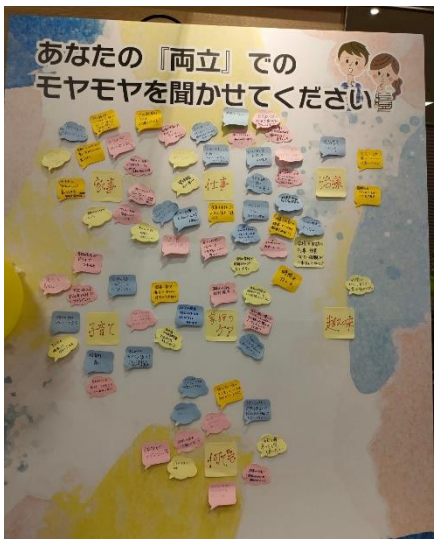
21 団体のブースが子育て・介護・治療・衣食住・趣味等と仕事の両立に関する相談体制や提案を持ち寄り、来場者は多くのコンテンツを楽しみながら両立について考えるきっかけとなった。

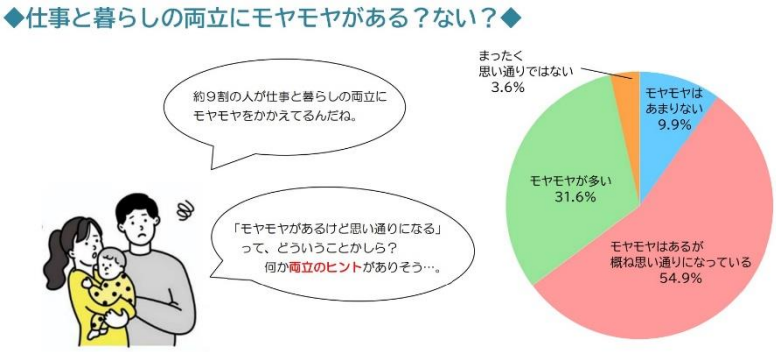
実施内容３：日々の暮らしをより良くするヒントの詰まったトークライブの実施

「家事（掃除）」「介護」「健康・食」をテーマに、地域で活躍する専門家の話や来場者とのやりとりが、両立に悩む当事者へのヒントとなった。

実施内容４：愛媛で両立の経験のある人、または、両立をしようとしている人の多様性に関する実態調査及びモヤモヤ回収ボードの設置

2022 年 12 月に WEB アンケートを実施。253 名から回答を得て、2023 年 3 月に報告書をまとめた。両立フェスタ会場には、その場で書けるモヤモヤ回収ボードを設置。周りのモヤモヤを見ながら自分だけでない、と感じた人も多かったようだ。





（えひめ女性財団調査研究事業助成金を活用）

＜成果＞

フェスタ実施に際し、実行委員会を立ち上げて賛助会員さんの協力を得ながら進めたことは、多様な価値観の意見交換でもあり、自分ゴト意識の醸成でもあった。クラウドファンディングを通して、自分たちが何を課題とし、どう発信するのがよいのか向き合う機会となった。フェスタ来場者からの「知らなかった」「知りたかった」という言葉や、モヤモヤの見える化の方法に課題があることから、コンシェルジュのような役割をすることが、ワーコラに求められることの一つであると認識できた。

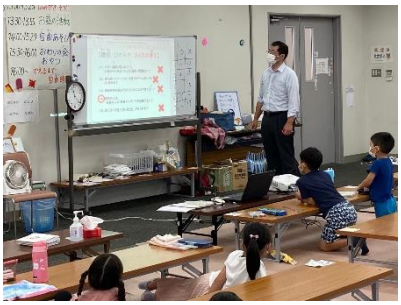
次世代育成事業

① まちのがっこう（休日子どもカレッジ）

小学生の長期休暇の預かり事業。2019 年夏休みより、愛媛県・松山市の補助金事業として松山大学と連携し施設内で活動。定員を 1 日 40 名とし、支援員の登録者約 30 名、社会人・学生ボランティア 100 名以上、社会教育プログラム（体験学習）実施には地域の企業・団体・個人・学生のみなさんが関わり、地域で子育てが実現している。

2022 年度	春休み 3/26～4/7	夏休み 7/21～8/31	冬休み 12/27～1/7
開校日	11	34	7
参加した子ども（のべ）	303	1003	119
プログラム	13	40	11
協力企業・団体・個人	9	31	8

協力法人会員（プログラム実施）　　（おやつ提供）



有限会社つじうち

有限会社ラポール

株式会社あわしま堂

パートナー企業

愛媛トヨタ自動車株式会社

株式会社日本エイジェント

株式会社 hanafu

株式会社星企画

＜成果＞

・４年目となる 22 年度は、利用希望者も増え続け、特に夏休みのパッケージ利用は定員の３倍の申し込みがあった。大学生ボランティアの他に高校生や、卒業生である中学生も積極的に活動に参加してくれた。小学生の預かりの場所に多世代が集まり、多様性を受け入れ互いに成長し合える地域の居場所となっている。

・社会教育プログラムを希望する地元企業もじわじわと増え、パートナー企業も５社となった。プログラムを実施する学生も増え始め、SNS の発信や説明会用の動画編集も積極的に行い、子どものサポートの先にある主体的な活動に取り組む大学生の成長が著しい。

② まちのがっこう+(プラス)

小学生の探究学習スペースとして、2021 年 5 月に開校。目に見えない重要な生きる力を育む手段として、探究学習をテーマとした体験活動を低学年・高学年に分かれて実施。22 年度は高学年の入校者がおらず、毎週水曜日 16：30～17：30 の低学年のみ実施。「まちづくり」をテーマに、前半は創作活動・フィールドワーク、後半はボードゲーム制作をし、保護者の方を呼んで一緒にゲームを楽しんだ。 1～3 月は体験版として 1 ヶ月の完結コースを実施し、 7 名の体験者が利用してくれた。23 年度は、1 年間のカリキュラムで起業・まちづくりをメインテーマとし、高学年の単発利用サービスも展開学びのハードルを下げ、継続した利用に結びつけたい。

＜成果＞
・協働の中で年度末には自分たちで作ったすごろくゲームを親子で楽しむことができた。
・自身の家にあるものは？という身近なテーマからフィールドワークや地域理解を通して作成した双六は子供達のオリジナリティが光った。
・集団の中でルールを合わせることの難しさも学んだ。

③ 地域の小学生の居場所「くりた子どもひみつきち」

地域の子どもが放課後のひとときに、話を聞いてくれる地域の大人（放課後児童支援員、地域住民、企業の従業員、学生ボランティア、臨床心理士等）とふれあい、安心して自分を開放できる、学校でも自宅でもない地域の拠点。
開所日：毎週木曜日（15 時～19 時）
場所：松山市生石町 472（有限会社やわらぎ グループホームいくし敷地内）
出資者：㈱栗田工務店
2022 年度実績：42 日間開所　　延べ 264 名利用
参加校区：たちばな、生石、味生第二、味生、新玉、姫山、石井東、味酒　　合計：8 校
季節のイベント開催：5 回、おはなし配達便　月 2 回（11 月より松山おはなし会）

<成果>
・小学生が放課後を過ごす地域の拠点が増えた。
・保護者の方からの感想として、「近隣のお友だちと遊ぶ機会が少ない中、ひみつきちでは安心して遊ばせる事ができ、親子で週１回の居場所として楽しみにしている」。

④ ライフデザインプロジェクト（まつやま人口減少対策会議専門部会事業）

企業に勤務する共働き経験者が、市内大学で仕事と暮らしの両立などについて話すライフデザイン出張講座や、共働き家庭が若者（大学生や企業の若手従業員）を家庭に受け入れる「共働きお宅訪問インターシップ」を実施することで、若者が家庭を築きながら働くことをイメージする機会を生む。企業（社会人）と若者との触れ合いが、相互の地域への関心につながり、若者が子育てをしながら地域に定着し次世代を社会全体で育てる風土を醸成していくことを目的とし、以下の活動を行った。

■ライフデザイン出張講座活動実績

<実施内容>
市内の各大学で、企業に勤務する共働き経験者に登壇いただき、価値観への折り合いのつけ方、仕事と暮らしの両立について話をしていただき、気づきの共有を行うライフデザイン出張講座を実施。

■共働きお宅訪問インターンシップ

対象	実施日/ 実施方法	社会人講師
松山大学経営学部 「キャリア形成論」 （2~4 回生・27 名）	R4.6/9 対面	**・青山商事㈱　新開茉美さん**
愛媛大学愛媛大学教育学部 「生活科学概論」 （2~4 年生・8 名）	R4.7/27 ハイブリッド開催	**・社会福祉法人福角会　居村和樹さん ・佐川印刷㈱　加納飛鳥さん**
松山東雲短期大学現代ビジネス学科「女性とキャリア開発」 （1 年生・60 名）	R4.11/21 対面	**・シブヤ精機㈱　門田陽南さん ・アットホーム㈱　島谷直希さん**

※本勉強会は、共働きお宅訪問インターンシップの事前学習を兼ねて開催しました。インターンシップ実施に向けて準備を進めていましたが、コロナ第７波の影響により調整が不調となり実施を断念しました。

No.	テーマ	実施日/ 実施方法	参加人数	ゲストスピーカー
1	**男女の価値観アップデート勉強会 vol.1 男性の育休取得者４名の体験談を聞いて、将来の結婚・子育てと仕事の両立について知識を深める勉強会**	R4.8/18 オンライン	学生９名 企業 11 社	・伊藤悟志さん（株式会社井関松山製造所） ・永山皓介さん（社会福祉法人福角会） ・中原知明さん（積水ハウス株式会社） ・秀野太俊さん（株式会社愛媛新聞社）

2	**男女の価値観アップデート勉強会 vol.2** **子育て世代の夫婦２組をと学生が、未来のハタラク・暮らすについて考えを共有、交流する勉強会**	R5.1/18 対面	学生 11 名 社会人 13 名	・島谷直希さん（アットホーム株式会社） ・島谷里奈さん（アビリティーセンター株式会社） ・中原知明さん（積水ハウス株式会社） ・中原育実さん（株式会社フジ・リテイリング）

■学生ボランティアスタッフの活動

学生ボランティアスタッフとは…

ライフデザインプロジェクトに参画してくれる学生を、出張講座等で募集しました。応募学生（松山大学２名、愛媛大学２名（全員女子学生））を主軸に、卒業した OG スタッフ２名を加えて、就活や将来についての不安や悩みを解決するイベントや勉強会を、企画、実施しました。

テーマ	実施日/実施方法	参加人数	内容
就活相談会	R5. 2 /2 1 対面	学生５名 若手社会人２名	就活を経験した大学生がこれから就活を始める大学生に、就活の経験談やアドバイスを共有し、不安や悩みを解消する就活イベント

■ワークライフバランス認定スピーカー

次世代を育てる企業人材を増やすことと、企業の中堅社員のアップデートの機会の創出をすることを目的とした、認定制度です。

この事業（令和２年度～）でご協力いただいた 16 名の社会人講師をワークライフバランス認定スピーカーとして認定し、次年度以降も若者を対象としたライフキャリア教育を推進していきます。

＜成果＞

・学生が自分自身の人生設計（ライフデザイン）について考える時、最も身近である親がロールモデルのケースが多く、知識や情報が時代に即していない場合が多いと考えられます。多様な価値観や働き方を伝え続けることが重要

・学生ボランティアスタッフとなり、積極的にライフデザインを学ぼうとする学生には女子が多数派の傾向。背景には、結婚、出産、子育てのライフイベントの負担が女性に多くあり、キャリア形成において不確定要素が大きい。結果的に自身のキャリアについても積極的に学ばざるを得ない状況がうかがえた。

・本県でも女子学生は大学卒業時に、転出超過の傾向にあります。理由としては、「やりたい仕事がない」「様々な職業を経験したい」「都会の生活にあこがれる」など。
・ライフデザイン出張講座での学生からの質問には、職場の多様性についての内容が多く、将来の就職先選びの重要な項目になっている。

⑤ 「三浦保」愛基金社会福祉分野公募事業

「まちのがっこう」で学生との共創と共育をテーマに、ボランティア支援マニュアル作成、勉強会、学生主体の活動のサポート(動画作成等)を行った。

支援マニュアル

ボランティア説明会

中山芳一氏講演会

動画作成（説明会にて活用）

社会教育プログラムサポート

＜成果＞
・主体的に動くコアメンバーが生まれ、それに影響された学生が活動に興味を持ち、参加する流れが定着してきている。（2023 年 3 月時点で現役生は 100 名を超えている）
・説明会で多くの学生に広く活用できる動画の編集も自らの経験を生かして主体的に行うことができた。
・卒業生が後輩に声がけし、この活動の良さを伝えようと動いており、学生の存在はまちのがっこう利用者にとっても大きな価値となっている。

コミュニティ形成事業

①ワーコラ部活動

https://www.worcolla.com/forper/community/cafe.html

地域の雇用形態、職種を越えてのネットワークづくりの場です。日々の暮らしで習慣化したいテーマに取り組む部活動を開催しました。1 テーマに 3 か月間、Facebook グループ内で毎日の成果を報告し合う取り組みを行いました。

期間	テーマ	参加人数
4 月~6 月	食事レコーディング「あすけんダイエット部」	4 名
7 月~9 月	目指せ 1 日 8000 歩！「歩数記録部」	7 名
10 月~12 月	1 日 1 捨「捨て活部」	13 名
4 月~12 月	Zoom でつないでもくもく自習する「朝活部」	1 名
9/30	本の書評ゲーム「ワーコラビブリオバトル」	5 名
2023.1/23	ミニミニ交流会（ラフォーグさんを囲んで）	7 名

＜成果＞

・SNS 上で毎日会話し、振り返ることにより、会員同士に交流が生まれ親睦が深まった。

② 会員向け研修、講演、研修会等

7 月	リーダーシップ発揮講座	7 名（(株)あわしま堂・日本エイジェント(株)・(株)昆布森の社員が参加）	講師：和泉智子さん（ワーコラ正会員）リアル開催
2.3 月	『経営のわかる心理士』が開催！心理的安全経営のための勉強会	6 名	講師：柴田智恵さん（有限会社大豊陸送）ハイブリッドにて

※集客が困難で時間がかかるため、単独よりも、事業と抱き合わせで実施していく必要性を感じた。

外部の講演活動では

・土佐町 SDG s 推進講座（ジェンダーギャップ解消、・経営者協会「女性の定着や育成」の講座

・愛媛県作業療法士会の「男女共同参画部」の立ち上げ講演登壇、

・愛媛大学大学院の令和 5 年度カリキュラムとして講座動画作成
など、新たな需要の切り口として広がりつつある。

広報

R5.5/13 現在

① メルマガ配信 「ワーコラ通信」毎月 1 回 **686 名（昨年度から 23 名増）**に 170 号まで配信済
② ワーコラかわら版　16 号、17 号　各 1,500 部発行
③ facebook（フォロワー**921 人：昨年度から 28 人増**）、Instagram（フォロワー**609 人：昨年度から 100 人増**）、Twitter（フォロワー64 人）、YouTube（チャンネル登録数 **12 人：昨年度から 2 人増**）
④ LINE 公式アカウント（登録者 **164 人：昨年度から 31 人増**）
⑤ note (https://note.com/worcolla)　フォロワー**21 人（昨年度から 2 人増）**
「オフィスをなくす、をやってみる」「ワーコラマガジン～Seeders(種をまく人々)～」